

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271300133		
法人名	有限会社 クオリティライフ		
事業所名	グループホームよこたの郷 東ユニット		
所在地	島根県仁多郡奥出雲町下横田27-1		
自己評価作成日	令和3年4月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3271300133-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和3年4月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人が「個」として理解され、その人らしさを大切にし、現存する能力の維持に努め、自分のペースで生きて行くという事を大切に生活支援を行っています。入居者との会話や表情から、本人の困っていることや求めていることを探り、本人の想いに添うことで、より良い信頼関係を築けるようにしています。認知症を患うお年寄りさんが、出来にくくなった点を見つけて、さりげなくケアをする特別な技術と、その人らしさを見いだす視点を併せ持ち、その場の雰囲気気を配ることが出来るスタッフをめざして研修や講演に参加したり、実習を積極的に受け入れたりして、認知症ケアの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年の開所以来、培われてきた利用者や職員のみなさんの信頼関係をもとに一人ひとりの思いを大切に日々を心豊かに過ごせるように工夫をされています。
 接遇研修も行われ、定期的に各々のケアに対する振り返りも行われ、勤続年数の長い職員も多く、風通しの良い職場環境作りを心がけておられます。
 食事は3食手作りの物が提供されており、匂いや音を感じられることにより、家庭的な雰囲気があり、季節ごとのおやつも手作りされています。
 食事の準備や片付けも利用者の方と一緒にいられ、食事の際も職員のみなさんも一緒に楽しく召し上がっておられます。
 ホームの畑で収穫された野菜も献立に取り入れられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に利用者の方への関わる姿勢やケアが理念に沿っているか、実際の場面をもとに再確認している。	「安心と尊厳のある生活を営むことの支援」という法人理念に基づきより具体的な事業所理念が作成されており、毎朝のミーティングの際に振り返り、実践に活かされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院受診の際は顔見知りの方との会話を楽しまれる事がある。 地方選挙の際は希望を確認して、投票に出かける支援をする	コロナ禍で地域の祭りの中止や地域への買物も行き難い状態が続いており、交流の機会が少なくなっていますが、コロナが収まれば従来通り、保育園や地域との交流も行われます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	奥出雲町認知症対策協議会やオレンジ(認知症)カフェの取り組みに関わり、グループホーム運営の実践を活かして地域住民の啓発活動などに貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新たにグループホーム、社協や小規模多機能型住宅支援の職員にも会議に参加してもらうことで、運営状況を開示したり、違う視点からの意見を取り入れるようにしている。	行政・家族代表・自治会長・同業種の方など多様な方々に参加頂き、様々な意見が取り入れられるメンバー構成になっています。グループホーム同士の情報交換の場にもなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から認知症ケアに関して、奥出雲町包括支援センターや福祉事務所との情報共有をしている。	地域包括支援センターから入居希望者の紹介もあります。判断が難しいことは町にも相談されています。包括支援センターや福祉事務所との情報共有も継続されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼時に実際の事例を元に話し合う機会を設けたり研修会参加、オンライン講座などにより、職員間で共通の認識が持て適切なケアが出来るよう努めている。	毎月のミーティングの際に身体拘束委員会が行なわれています。毎朝のミーティングの際に、事例検討を行なう等し、身体拘束にならないよう付けておられます。研修等も実施され職員間で共通認識を持ちながらケアに取り組んでおられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加したり朝礼での意見交換で日々の利用者に対するケアの再確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン講座マナビタで権利擁護、成年後見人制度について研修できる機会を設けている。社協の権利擁護事業の利用者については定期的に情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけ契約前には、ホームの見学をして頂き、雰囲気を感じ取って頂いたうえで情報を提供し説明している。また家族や利用者本人の不安や疑問を聴き状況を把握し契約締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、入居者と家族の数名に参加してもらい意見を頂くようにしている。	コロナ禍のため現在は面会ができませんが、少しでも双方向で話ができるようにオンラインを活用されたり、病院受診の機会に家族と会える様調整し、家族の方の意見を聞く機会が設けられています。また、利用者の方々とは日頃からよく話しをされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員参加のユニット会議に加えて朝礼や日々の活動の中で職員から随時聴いて、職員の考えが運営に反映されるようにしている。また、設備や業務の細かな改善に努めている。	ユニット会議や毎朝のミーティングで職員より意見を聴取し運営に反映させておられます。申し送りノートも併用し、利用者について伝えることは日々行われています。職員面談も行われ職員一人ひとりの目標を定め、達成できるように努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面接・業務評価を実施し、各自目標設定から評価につながるようなしくみ作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会に計画的に参加してもらったり、認知症介護について実践の中で、職員のレベル向上の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲南地域グループホーム部会研修、他のグループホーム職員や小規模多機能施設の職員と交流は実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を参考に安心して頂ける会話や関わり方を心がけている。その中から不安や希望要望を聞き出しケアの方向性を決め職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規の利用の方についてはご家族から要望、入居にあたっての心配事など伺い一緒に本人を支えあっている関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネを通して、入居の打診があるケースがほとんどであり、他のサービスの検討がほぼ終わっている感があるが、インフォーマルサービスを中心に、可能性は検討材料に入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備から後片付け、洗濯物干しなど生活の場面で、常に職員と利用者が行動を共にするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、手紙、メールなど家族状況に合わせた手段で、本人の様子をお伝えし、家族が本人の支援に十分かわれるよう配慮している。また随時希望、要望を聞かせてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室やかかりつけの病院へは継続して利用していただいている。知人、家族からの電話などで繋がりを維持できるよう配慮している。	馴染みのかかりつけ医や理美容店を利用する事で馴染みの関係を継続されています。自宅を見に帰られる方もおられます。電話や手紙での関係継続も行われています。	関係継続が行なわれて場合には、回想法につながる関わりが行なわれると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮しながら心地良い空間になるようパーテーションを活用したりテーブルやソファの配置を工夫している。隣のユニットに知人が居れば随時交流が出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の状態や家族の希望を考慮して、本人がより良い生活ができるように相談や支援を行なっている。今年度はホーム→病院、特養への支援を行なった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から日常生活の会話の中で思いや意向を伺いケアに繋げている。困難な場合でも本人の立場に立ち表情や仕草から察したりご家族に伺っている。	日頃から職員は、利用者の気持ちを汲み取れるよう配慮されています。言葉で表すことが困難な方には本音を聞き出すことは難しいですが、可能な限り表情や仕草から読み取るようにされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お茶の時間や一緒に家事、炊事をしている時に会話の中から引き出している。またご家族から面会の折に生活歴を尋ねケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や行動などから一人ひとりの状態に常に気を配っている。状態に変化があればその都度ケアの調整を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態に変化があった時に本人と職員で対応策を協議している。必要に応じて家族や医師から意見要望を頂き介護計画作成を行っている。	毎月利用者の状況報告を行い、ケアの在り方が話し合われ、必要な場合には医師や家族と協議を行い検討されます。評価・見直しは6ヶ月に1回行われ、状態変化が見られる場合には随時変更されます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌に始業前日を通すよう徹底されている。利用者の変化や気づきは常に個人記録に記入し情報を職員間で共有、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日のお祝いに本人の希望を聞いて「○○が食べたい(外食含む)。○○を見に行きたい」など個別のサービスを提供している。急に「家に帰ってみたい」などの気持ちに沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへの買い物や精米なども職員と一緒に行っていただいている。また、入浴が好きな方とは地元の温泉へ行くなどの活動も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の馴染みの医師を入居後もかかりつけ医として受診できるよう支援している。身体機能の低下により通院が困難になった場合でも往診の依頼をし関係が継続するよう対応している。	現在は往診を希望される方はなく、みなさんかかりつけの病院に受診されています。往診に来ていただける体制はできています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム在勤の看護師と介護職員は常に情報を共有している。かかりつけ医療機関の看護師にも相談しながら利用者の体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師に治療の状況を確認、相談しながら早期の退院になるよう協力している。ご家族とも情報を共有し今後の方針を協議した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	機能低下によりホームでの生活困難な方について家族との話し合いを基に、他の施設とも連携し今後の生活について支援、協力をしている。	重度化や終末期に向けた方針は、利用開始時に、利用者・家族に説明し了承を得ておられます。状重度化された場合には、かかりつけ医や家族と話し合い、病院や施設入所がスムーズに移行できるよう支援が行なわれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの時にマニュアルに沿って行動がとれるよう確認を行っている。一人一人の病状と急変リスクのある方については、主治医のアドバイスにより対応を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に職員が的確な行動がとれるよう定期的に避難訓練、通報訓練を行っている。	年2回の避難訓練を実施されており、うち1回は消防署立ち会いのもと行われています。また、通報訓練も行われています。備蓄も用意されています。	令和3年の報酬改訂でBCP計画の策定が義務付けられました。感染症・自然災害に対して想定されるシミュレーションからの策定をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や言葉遣いについて研修、定期的な振り返りを行っている。職員が仕事に入る時、帰る時は、入居者一人ひとりに声掛けをするようにしている。	従来からグループホーム全体で利用者一人ひとりに合わせた言葉掛けや対応を心掛けておられます。定期的に接遇研修も行なわれ、振り返る時間も持たれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	部屋食を希望される方には居室対応をしたり、入浴も午前と午後希望を伺ったりと出来るだけ本人の希望が叶い自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方が主役、職員は黒子になるよう意識を持って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時だけでなく居室からホールへ出掛けられる時なども身だしなみには気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度から片付けまで一緒にして頂いている。食事をゆったりと楽しめるよう利用者同士の関係性を考慮してテーブル、仕切りを配置している。	3食手作りで、家庭的な雰囲気を大切にしています。食事の準備や片付け等もお手伝いして頂いています。ホームの畑もあり、収穫された野菜を献立に取り入れたり、季節を感じられるおやつも皆さんで作られます。行事食も行われています。また、忘年会・新年会の時期には鍋も提供されます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が接種しにくい方にはゼリーや好みの飲み物で対応し水分を確保している。食事の量も一人ひとり調整、一覧表にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には義歯の洗い残し等を確認し洗浄剤に漬けている。残った歯も磨いて頂き清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録や日々の様子から排泄パターンを掴み個々に対応している。	排泄のパターンを記録し、把握する事で、一人一人に合った排泄誘導が行なわれています。布パンツの方もあります。夜間ポータブルトイレを使用される方もありません。リハパン・パットはそれぞれに適したものをGHで購入し、排泄の自立に向け支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂って頂いたり牛乳やヨーグルトを摂取してもらうなど、なるべく食品で予防と対応が出来るよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や湯の温度等それぞれの好みや希望に沿い入浴の時間がリラックスした時間になるよう支援している。	午前と午後、夕食前の時間等、利用者の希望に合せ、週2回以上好みの湯加減でゆったりと入浴を楽しんで頂かれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は声の大きさや動くスピードまた日差しの強さや部屋の温度などあらゆることに意識を向け、ゆっくりとした時間が流れ安心して休息して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイリングし職員間で情報を共有、把握している。症状の変化があれば医師に報告し調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理などその方にあつた役割をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の飲食店や温泉、小中学生のロードレースの応援など一人ひとり希望に沿った場所へ出掛けている。	現在はコロナ対策の為、外出の機会が減少していますが、一人ひとりの希望に沿うように心掛け、安全対策を講じながら、ドライブや買い物に出掛けておられます。地域の飲食店の利用も貸切状態で出掛けておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に欲しい物が購入できたり食べたい物が食べれたり出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	従来の固定電話のほかタブレットのライン電話にも対応できることを家族に伝えている。深夜、早朝の時間は除き電話や手紙のやり取りは自由にして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下は観葉植物、季節の花を飾り気持ちよく過ごして頂けるよう工夫している。テレビの音量や温度、湿度にも常に配慮している。	換気も行われ、空気清浄機も設置しておられます。観葉植物や季節の花を飾られています。ソファの置かれゆったりと過ごせる空間作りが行なわれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールはソファを置いたりパーテーションで間仕切りをするなどして、それぞれの時間を過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や寝具、装飾品を使用いただいている。また、レイアウトも本人やご家族と相談しながら決め居心地の良い居室になるよう工夫している。	自宅で使用していた馴染みの物を持ち込んで頂いたり、自宅で過ごしていた時と同じようなベッドの配置等できる限り居心地良く、安心して頂けるような居室になるよう手伝わっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	義歯の保管箱や洗浄ブラシが、洗面台のわかり易いところに置いてあり、自分で出来る方は自分で処理ができるようにしてあるなど、活動場面に応じて工夫をしている。		